

2026年3月期通期決算

(2025年4月1日～2026年3月31日)

IDEC株式会社

証券コード:6652

2026年5月14日



IDEC株式会社 2026年3月期 通期決算説明会を始めさせていただきます。

私は、本日司会を務めさせていただきます、コーポレートコミュニケーション室の元山理映子と申します。

本日の出席者をご紹介します。

代表取締役会長兼社長 船木俊之です。

取締役 常務執行役員 船木崇雄です。

グローバルファイナンス本部 本部長 小川泰幸です。

宜しくお願いいたします。

本日は初めに、社長からご挨拶させていただいた後、決算概要や中期経営計画の進捗についてご説明させていただき、その後質疑応答を行わせていただきます。

それでは、社長お願いいたします。

社長の船木俊之でございます。
本日はお忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

「新生IDEC」への変革を実現すべく、中期経営計画を進めておりますが、その1年目になる2026年3月期は増収増益を達成することが出来ました。

新生IDEC ということで、この3年間でさまざまな施策や事業戦略を推進し、日本中心からグローバルベースでの経営ができるように改革を進めております。

初年度としては、まだまだ計画の道半ばというところですが、今後も計画を押し進めていきますので、2年目、3年目には、グローバルベースで戦略を推進していくように変わっていきますし、業績も良くなっていくと考えております。

いろいろご質問があると思いますので、後ほどお答えしてさせていただきます。

01 — 2026年3月期 通期業績

続きまして、決算概要についてご説明させていただきます。

売上

売上高 **729** 億円 (前期比 +8.3%)

- 国内外で流通在庫の消化が進み、主要産業の需要も拡大していることから、中国や米国を中心に各地域で売上高が伸長
- 中期経営計画1年目として、計画を大きく上回る結果を達成

利益

営業利益 **61** 億円 (前期比 +67.5%)

営業利益率 **8.4%**

- 増収の影響により、利益も大幅に改善

配当

年間配当 **130** 円 (配当性向 99.1%)

2026年3月期の決算ポイントですが、前期から課題となっていた流通在庫の消化が国内外で進み、主要産業の需要も拡大していることから、中国や米国を中心に各地域で売上高が伸長し、前期比8.3%増の729億円となりました。

中期経営計画1年目として、計画を上回る結果を達成し、利益も増収の影響により大幅に改善したことで、営業利益は前期比67.5%増の61億円となりました。
営業利益率は、6.9%の計画に対して、8.4%の実績となりました。

配当につきましては、計画通り130円となり、配当性向は99.1%となります。

連結業績(通期)



単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2025年3月期		2026年3月期		
	実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上高	67,380	100.0%	72,967	100.0%	+8.3%
売上総利益	29,437	43.7%	32,349	44.3%	+9.9%
販売費及び一般管理費	25,784	38.3%	26,230	35.9%	+1.7%
営業利益	3,652	5.4%	6,118	8.4%	+67.5%
経常利益	3,477	5.2%	6,569	9.0%	+88.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,778	2.6%	3,873	5.3%	+117.7%
1株当たり当期純利益 (潜在株式調整前)	60.36円	-	131.22円	-	+70.86円
米ドル平均レート(円)	152.62円		150.67円		△1.95円
ユーロ平均レート(円)	163.87円		174.64円		+10.77円
人民元平均レート(円)	21.11円		21.22円		+0.11円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

4

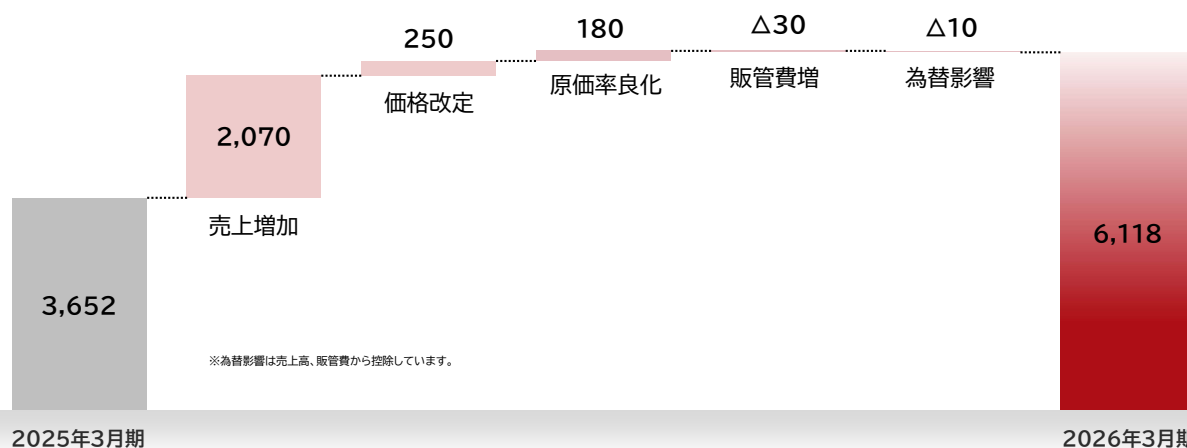
通期の連結業績は、増収効果もあり粗利率は44.3%に改善いたしました。

一方販売管理費については、前期に実施したセカンドキャリア支援制度により、日本で労務費が減少した一方、主に為替の影響から海外では増加し、販管費率は35.9%となりました。

営業損益変動要因



- 各地域で売上高が伸長したことから、営業利益は前期比で約24.6億円増加



営業利益の変動要因については、各地域で売上が伸長したことによる利益増や、グローバルでの価格改定効果、原価率の良化により、前期比で約24.6億円増加いたしました。

連結業績(四半期)



単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2025年3月期				2026年3月期						
	4Q (1-3月)		1Q (4-6月)		2Q (7-9月)		3Q (10-12月)		4Q (1-3月)		
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比
売上高	17,909	100.0%	15,736	100.0%	18,374	100.0%	18,906	100.0%	19,950	100.0%	+11.4%
売上総利益	8,040	44.9%	6,643	42.2%	8,584	46.7%	8,377	44.3%	8,743	43.8%	+8.7%
販売費及び一般管理費	6,688	37.3%	6,318	40.2%	6,298	34.3%	6,608	35.0%	7,005	35.1%	+4.7%
営業利益	1,351	7.5%	324	2.1%	2,286	12.4%	1,769	9.4%	1,738	8.7%	+28.6%
経常利益	1,110	6.2%	627	4.0%	2,282	12.4%	2,003	10.6%	1,656	8.3%	+49.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	162	0.9%	465	3.0%	1,290	7.0%	1,130	6.0%	987	4.9%	+506.2%
1株当たり四半期純利益 (潜在株式調整前)	5.52円	-	15.77円	-	43.71円	-	38.30円	-	33.44円	-	

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

6

四半期別では、好調な受注状況を受け、各地域で売上が堅調に推移し、前期比、第3四半期比とも増収増益となりました。

第4四半期の営業利益率は8.7%となりました。

仕向地別の売上状況



単位:百万円 ※百万円未満切り捨て (構成比)	2025年3月期	2026年3月期	前期比
日本	24,294 (36.1%)	24,500 (33.6%)	+0.9%
海外	43,085 (63.9%)	48,466 (66.4%)	+12.5%
米州	14,389 (21.4%)	15,944 (21.8%)	+10.8%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	14,512 (21.5%)	15,657 (21.5%)	+7.9%
アジア・パシフィック	14,184 (21.0%)	16,865 (23.1%)	+18.9%
合計	67,380 (100%)	72,967 (100%)	+8.3%

日本

- 流通在庫の消化と共に、主要産業の需要が徐々に回復し、受注が先行し始めたこともあり、グループ会社の事業譲渡の影響がある中でも売上高は増加

米州

- 米国の追加関税分の販売価格への転嫁による影響に加え、受注残の解消も進んだことから売上高が伸長

EMEA

- 欧州では景気低迷や地政学リスクの影響などにより主要産業の需要が落ち込んだものの、円安の影響により売上高は増加

アジア・パシフィック

- 中国における自動車や半導体業界などの需要拡大に加え、流通在庫も正常化したことにより売上高は堅調に推移

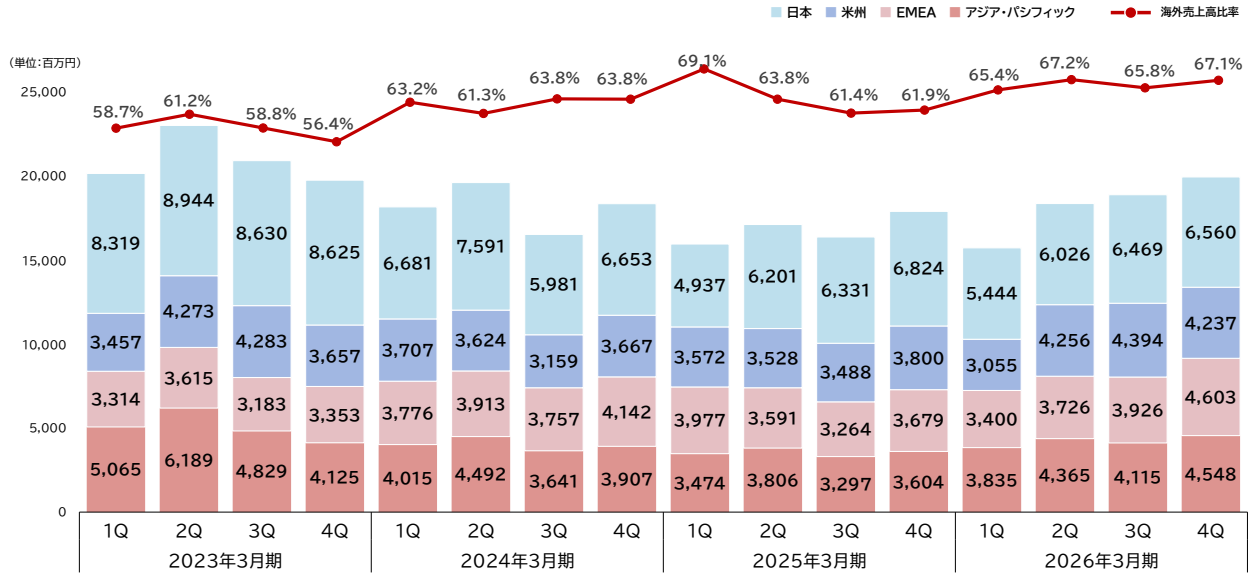
仕向地別の売上については、日本では流通在庫の消化と共に主要産業の需要が徐々に回復し、受注が先行し始めたこともあり、グループ会社の事業譲渡の影響がある中でも売上は増加いたしました。

米州は、追加関税分の販売価格への転嫁による影響に加え、受注残の解消も進んだことから、売上は前期比12.5%増となりました。

EMEAは、欧州での景気低迷や地政学リスクの影響などにより、主要産業の需要が落ち込んだものの、円安の影響により、売上は前期比7.9%増となりました。

アジア・パシフィックは、中国で自動車や半導体業界などの需要拡大に加え、流通在庫も正常化したことにより売上が堅調に推移し、前期比18.9%増となりました。

仕向地別の売上状況(四半期)



※百万円未満切り捨て

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

四半期別推移についても、流通在庫の消化や期末という季節性要因もあり、前年同期比、第3四半期比ともに売上が増加し、海外比率は67.1%となりました。

製品別の売上状況



単位:百万円 ※百万円未満切り捨て (概算)	2025年3月期	2026年3月期	前期比
HMI事業	31,842 (47.3%)	34,085 (46.7%)	+7.0%
インダストリアル コンポーネンツ事業	11,294 (16.8%)	13,005 (17.8%)	+15.2%
オートメーション& センシング事業	8,705 (12.9%)	8,193 (11.2%)	△5.9%
安全・防爆事業	11,045 (16.4%)	12,665 (17.4%)	+14.7%
システム	3,479 (5.2%)	5,016 (6.9%)	+44.2%
その他※	1,013 (1.4%)	—	—
合計	67,380 (100%)	72,967 (100%)	+8.3%

HMI

- 欧州における景気低迷や特殊車両業界の需要減少などの影響はあるものの、流通在庫の正常化に加え、ファクトリーオートメーション向け産業用スイッチの売上が堅調に推移

インダストリアル コンポーネンツ

- 主力市場であるアジア・パシフィック、北米市場において、制御用リレーの売上が堅調に推移

オートメーション& センシング

- 主力製品であるプログラマブルコントローラにおいて、主要市場である北米が堅調に伸長したものの、OEM先の在庫調整による新規注文が減少
- また、前期は国内の自動認識機器の大口受注などがあったこともあり、事業全体では前期比で減少

安全・防爆

- 主力市場である日本、アジア・パシフィックにおいて、特に中国における安全関連機器の売上が堅調に推移

システム

- 日本、アジア・パシフィックにおいて、半導体製造設備・物流関連設備等の制御盤の売上が拡大

※IDECシステムズ&コントロールズ株式会社(太陽光発電事業)の売却等により、2026年3月期から「その他」は廃止

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 9

製品別売上高については、HMI事業では、欧州における景気低迷や特殊車両業界の需要減少などの影響はあるものの、流通在庫の正常化に加え、ファクトリーオートメーション向けの産業用スイッチの売上が堅調に推移し、前期比7%増となりました。

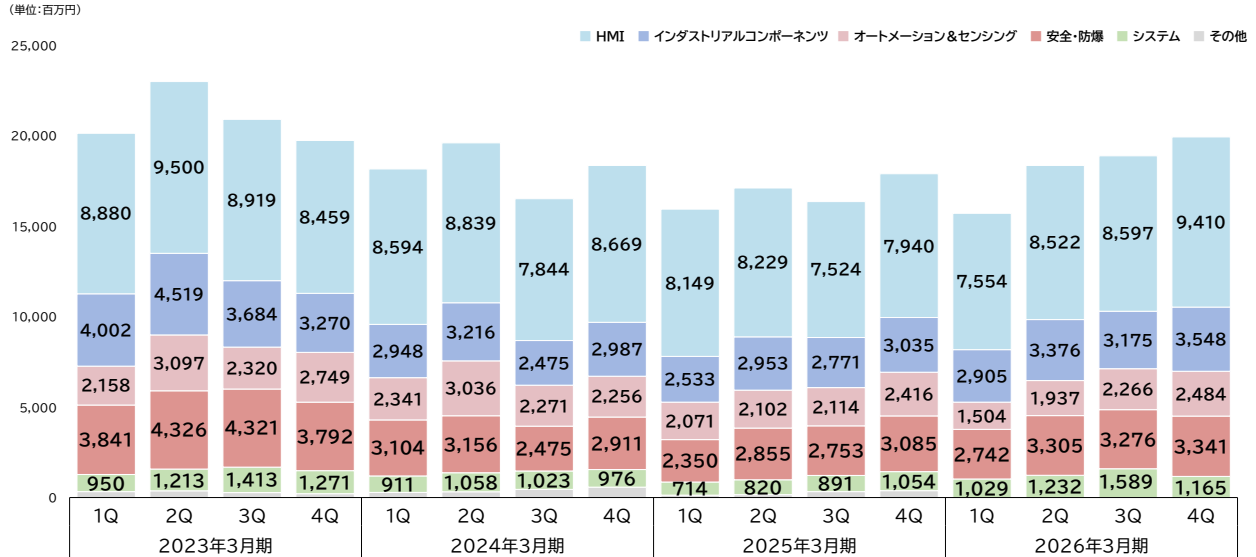
インダストリアルコンポーネンツ事業は、主力市場のアジア・パシフィック、北米市場において制御用リレーの売上が堅調に推移し、前期比15.2%増となりました。

オートメーション&センシング事業は、主力製品であるプログラマブルコントローラが主要市場である北米で堅調に推移したものの、OEM先の在庫調整による新規注文が減少しました。また、前期は日本で新紙幣発行に伴う自動認識機器の大口受注があったこともあり、事業全体では前期比で5.9%減となりました。

安全・防爆事業は、主力市場である日本、アジア・パシフィックにおいて、特に中国における安全関連機器の売上が堅調に推移し、前

期比14.7%増となりました。

製品別の売上状況(四半期)



※百万円未満切り捨て
 ※ IDECシステムズ&コントロールズ株式会社(太陽光発電事業)の売却等により、2026年3月期から「その他」は廃止

四半期別推移についても、主要事業はそれぞれ売上を伸ばしました。

特にHMI事業は、欧州におけるAPEMの売上回復に伴い、前年同期比、第3四半期比共に高い伸び率となりました。

受注状況



- 中国、米州が牽引する形で、各地域における受注回復傾向が継続しており、受注高、受注残高とも前期比で増加

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2025年3月期		2026年3月期			
	受注高	受注残高	受注高	前期比	受注残高	前期比
日本	27,635	5,271	28,321	+2.5%	6,605	+25.3%
米州	13,910	2,611	16,519	+18.8%	3,392	+29.9%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	14,425	7,522	16,243	+12.6%	7,813	+3.9%
アジア・パシフィック	12,849	4,353	15,500	+20.6%	5,564	+27.8%
合計	68,821	19,758	76,585	+11.3%	23,376	+18.3%

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 11

受注高については、中国、米州が牽引する形で、各地域における受注回復傾向が継続しており、受注高、受注残高共に前期比で増加いたしました。

受注状況(四半期)



- 期末である第4四半期は受注高が上がる傾向にあることもあり、日本、中国を中心に第3四半期比で各地域受注高が拡大

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2025年3月期		2026年3月期							
	4Q (1-3月)		1Q (4-6月)		2Q (7-9月)		3Q (10-12月)		4Q (1-3月)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
日本 (太陽光発電事業を除く)	7,535 (6,320)	5,271	6,541	5,985	6,875	6,168	6,621	5,627	8,282	6,605
米州	3,908	2,611	3,557	3,191	3,953	2,929	4,302	2,873	4,706	3,392
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	3,776	7,522	2,989	7,086	3,767	7,072	4,675	7,738	4,812	7,813
アジア・パシフィック	4,573	4,353	2,421	3,269	3,007	2,591	3,451	2,665	6,620	5,564
合計	19,794	19,758	15,510	19,532	17,604	18,762	19,050	18,906	24,420	23,376

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 12

四半期別では、期末である第4四半期は受注高が上がる傾向にあることもあり、各地域で好調に推移しています。

特に第3四半期比で伸びているのは日本と中国ですが、日本は主に半導体関連装置向けの受注が足元で好調に推移しているほか、グループ会社のシステム受注も増加いたしました。

中国については、例年期末に受注が増える傾向にあるため、第4四半期に大きく受注が増加いたしました。

連結貸借対照表



単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2025年3月期 (前会計年度)	2026年3月期 (当会計年度)	前期比
流動資産	51,480	53,312	+1,831
固定資産	55,736	60,259	+4,523
流動負債	27,662	27,065	△596
固定負債	15,744	16,586	+841
純資産	63,810	69,920	+6,110
総資産	107,216	113,572	+6,355
自己資本比率	58.9%	61.0%	+2.1%

資産

- 現金及び預金が減少した一方、有形固定資産や売上債権、棚卸資産も増加したことから、総資産は前期末比で約63.5億円増加

負債

- 未払金や仕入債務が減少した一方、借入金が増加したことなどから、負債は前期末比で約2.4億円増加

純資産

- 為替換算調整勘定が増加したことなどから、純資産は前期末比で約61.1億円増加

貸借対照表については、現預金が減少した一方で、米国新本社などの有形固定資産や、売上債権、棚卸資産が増加し、総資産は前期末比で約63.5億円増加いたしました。

負債については、未払金や仕入債務が減少した一方、借入金が増加したことなどから、前期末比で約2.4億円増加いたしました。

自己資本比率は前期より2.1%増加し、61%となりました。

連結キャッシュ・フロー



単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2025年3月期	2026年3月期	前期比
営業CF	11,248	7,442	△3,805
投資CF	△4,097	△5,296	△1,199
FCF ※フリーキャッシュ・フロー	7,150	2,145	△5,005
財務CF	△2,905	△3,690	△785
現金及び現金同等物の 期末残高	19,194	18,142	△1,052

営業CF

- 法人税等を納付した一方、減価償却費や税金等調整前当期純利益、事業構造改革費用の計上などにより、約74.4億円

投資CF

- 固定資産の取得による支出があったことなどにより、約△52.9億円

財務CF

- 配当金などの支出により、約△36.9億円

営業キャッシュ・フローについては、法人税等を納付した一方、減価償却費や税金等調整前当期純利益、事業構造改革費用の計上などにより、74.4億円となりました。

投資キャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出があったことなどにより、△52.9億円となり、フリーキャッシュ・フローは21.4億円となりました。

02 — 2027年3月期 通期業績予想

続いて、2027年3月期の業績予想についてご説明します。

2027年3月期 通期業績予想



	期初想定 (2025年5月発表)	予想 (2026年5月14日発表)
売上高	720億円	755億円
営業利益 (営業利益率)	72億円 (10%)	72億円 (9.5%)

- 中期経営計画2年目は、グローバルでの市場環境を踏まえ、期初計画を見直し

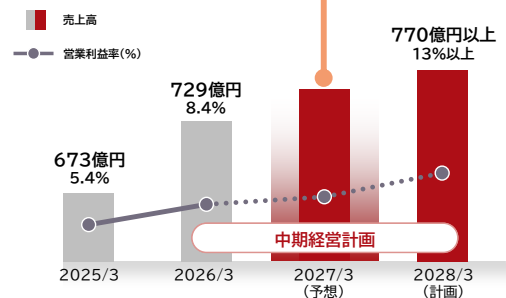
プラス要因

- ・ グローバルで好調な受注状況や為替の影響などにより、売上高は期初想定より増加見込み
- ・ 拠点の再編や製品価格の見直しなどにより、コスト低減の取り組みを継続

マイナス要因

- ・ 地政学的リスクの高まりを背景とした、樹脂・銅などの原材料価格、輸送費の高騰などにより原価が上昇
- ・ 人材投資に加え、前期から実施してきたITセキュリティ強化、各種システムへ投資に関する減価償却費が発生することで、販売管理費が増加

売上高と営業利益率の推移



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 16

2025年5月に中期経営計画を発表した際に、2年目となる2027年3月期の業績を、売上高720億円、営業利益率10%としておりました。この期初想定を、グローバルでの市場環境を踏まえて見直し、売上高755億円、営業利益率9.5%といたしました。

1年前と比べた際のプラス要因は、グローバルで受注状況が好調に推移しており、為替影響などもあることから、売上高は増加する見込みです。

一方マイナス要因としては、地政学的リスクの高まりを背景とした、樹脂・銅などの原材料価格や輸送費の高騰などにより、原価が期初の見通しよりも上昇しております。

また為替の影響や、賃金の増加やグローバルでの人材投資に加え、これまで実施してきたITセキュリティ強化や、各種システム投資に関する減価償却費が今期から発生することで、販売管理費が増加する見込みです。

今後、拠点の再編や製品価格の見直しなどを行うなど、コスト低減の取り組みを継続し、利益率の向上を目指します。

2027年3月期 通期業績予想



- 好調な受注状況を踏まえ、前期比で増収増益の計画

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期		2027年3月期		
	実績	売上比	予想	売上比	前期比
売上高	72,967	100.0%	75,500	100.0%	+3.5%
売上総利益	32,349	44.3%	35,200	46.6%	+8.8%
販売費及び一般管理費	26,230	35.9%	28,000	37.1%	+6.7%
営業利益	6,118	8.4%	7,200	9.5%	+17.7%
経常利益	6,569	9.0%	6,750	8.9%	+2.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,873	5.3%	6,000 [※]	7.9%	+54.9%
1株当たり当期純利益 (潜在株式調整前)	131.22円	-	203.25円	-	+72.03円

※米国拠点の旧社屋の土地・建物を譲渡することで、特別利益39億円を計上見込み

米ドル平均レート(円)	150.67円	150.00円	△0.67円
ユーロ平均レート(円)	174.64円	180.00円	+5.36円
人民元平均レート(円)	21.22円	21.00円	△0.22円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 17

先ほどもご説明した通り、好調な受注状況を踏まえて、前期比で増収増益を見込んでおります。

粗利率は前期の44.3%から46.6%と改善を見込んでおりますが、販売管理費については先ほどのご説明の通り増加する見込みで、営業利益率は9.5%の計画としております。

なお、米国販社の旧本社だった土地・建物を譲渡することで、特別利益を39億円見込んでいることから、当期純利益は60億円としており、1株当たり当期純利益は203.25円の予想です。

2027年3月期 通期業績予想



- HMIやオートメーション&センシング、安全・防爆事業を中心に、国内外で増収を見込む

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て (構成比)	2026年3月期	2027年3月期	
	実績	予想	前期比
HMI事業	34,085 (46.7%)	35,200 (46.6%)	+3.3%
インダストリアルコンポーネンツ事業	13,005 (17.8%)	13,000 (17.2%)	△0.0%
オートメーション&センシング事業	8,193 (11.2%)	8,800 (11.7%)	+7.4%
安全・防爆事業	12,665 (17.4%)	13,400 (17.7%)	+5.8%
システム	5,016 (6.9%)	5,100 (6.8%)	+1.7%
合計	72,967	75,500	+3.5%
国内売上高	24,500	25,400	+3.7%
海外売上高 (海外売上高比率)	48,466 (66.4%)	50,100 (66.4%)	+3.4% (-)

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 18

製品別、地域別の予想はご覧の通りですが、HMIやオートメーション&センシング、安全・防爆事業などを中心に、国内外で増収を見込んでおります。

設備投資額・減価償却費・研究開発費



- 持続的な成長実現に向けた各種投資を推進

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期	2027年3月期 (予想)	前期比
設備投資額	5,937	4,100	△30.9%
減価償却費	3,997	4,600	+15.1%
研究開発費	2,945	3,300	+12.1%

設備投資

- 各種システム(ERP、SCPなど)導入、ITセキュリティ強化、米国新拠点への設備投資は、2026年3月期までに概ね完了
- 2027年3月期は41億円の予想

減価償却

- 2026年3月期までの設備投資に関する減価償却費を、2027年度3月期より計上

また、持続的な成長を実現するための各種投資を推進していますが、設備投資に関しては、ERPなどの各種システムの導入、ITセキュリティの強化に加え、米国新拠点など設立などが前期までに概ね完了していることから、今期は41億円の予想としております。

一方で、これまでの設備投資に対する償却が今期からはじまるため、減価償却費については前期比で15.1%増の46億円の見込みです。

研究開発費は33億円としております。

為替レートと為替感応度

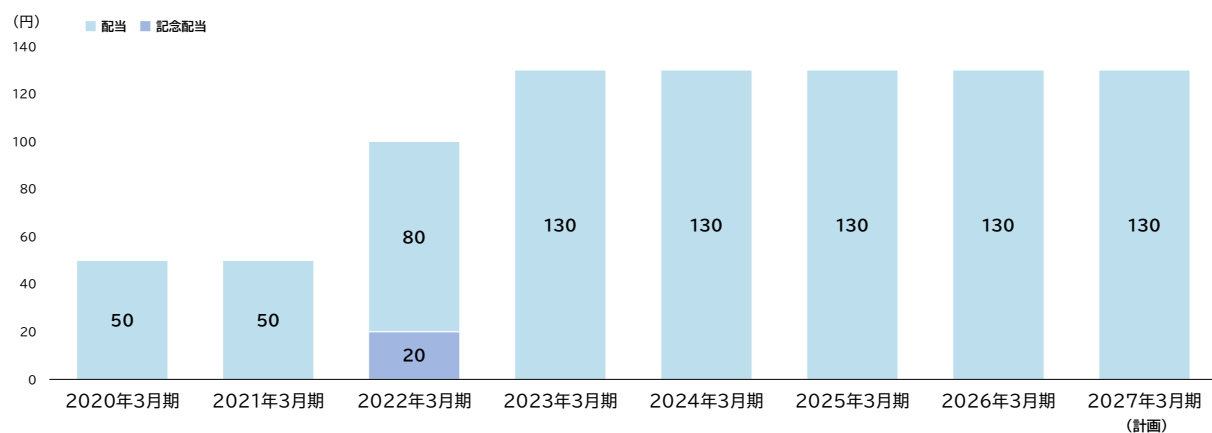
通貨	為替前提	1円変動による影響額 ※人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	150円	120百万円	10百万円
ユーロ	180円	90百万円	7百万円
人民元	21円	40百万円	5百万円

今期の為替前提は、ドルが150円、ユーロ180円、人民元21円で、為替感応度はご覧の通りです。

配当



- 年間130円(中間配当65円、期末配当65円)を維持



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 21

配当については、安定的かつ持続的な配当を維持する方針で、中間配当65円、期末配当65円、年間130円の計画としております。

以上で、決算概要の説明を終わらせていただきます。

03 — 中期経営計画の進捗状況

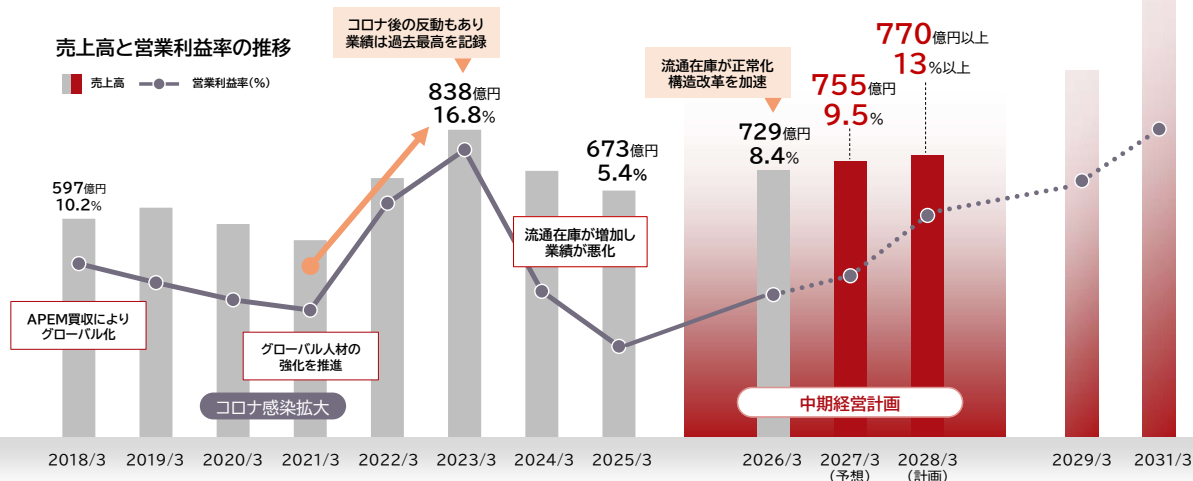
続きまして、中期経営計画の進捗状況を、取締役の船木崇雄よりご説明させていただきます。

取締役の船木です。
私から、中期経営計画の進捗状況についてご説明します。

中期経営計画



- 顧客ニーズ対応力を強化し、高収益体質のグローバル企業へ変革するための、3か年の中期経営計画を推進中



現在、顧客ニーズ対応力を強化し、高収益体質のグローバル企業へと変革するための、3か年の中期経営計画を推進しています。

1年目となる2026年3月期は、計画を大きく上回る結果となりました。

2年目は、売上高755億円、営業利益率9.5%の計画としています。

新生IDEC

顧客中心のビジネス構造へ転換し
市場変化への対応力を向上

顧客中心のビジネス構造

- 顧客ニーズに対応するグローバル体制
P.25 P.27-28 P.30
- 顧客課題を解決するソリューション事業拡大
P.26 P.32-33

One IDECの実現

- 事業と拠点のグローバル最適化 P.29 P.30
- デジタルを活用した顧客満足と効率化を両立するSCMの確立 P.36
- One IDECを支える体制整備 P.25 P.35

2028年3月期 目標

売上高 **770** 億円以上

営業利益率 **13**%以上

ROIC **7**%以上

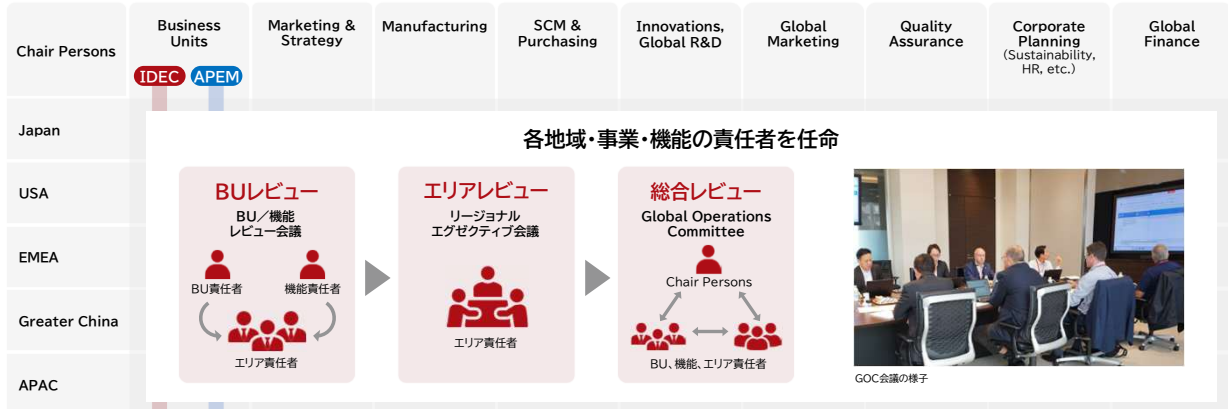
中期経営計画の最終年度の目標は、売上高770億以上、営業利益13%以上、ROICを7%以上としており、この目標は変わっていません。

新生IDECへと生まれ変わっていくために、顧客中心のビジネス構造を構築するとともに、One IDECを実現する取り組みを行っています。

グローバル体制の刷新



- 2025年4月から、新たなグローバル・マネジメント・マトリックス体制でスタート
- Global Operations Committee(GOC)を設立し、定期的な情報共有・進捗確認を行いながら計画を見直し、年度計画・中期経営計画を着実に推進



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 25

顧客ニーズに対応し、One IDECとなるためのグローバル体制へと刷新しました。

2025年4月から、事業、機能、地域責任者で構成する、グローバル・マネジメント・マトリックス体制をスタートしています。

GOCと呼んでいるこの新体制のもと、月に一度、事業、機能、地域責任者が集まり、定期的な情報共有や進捗確認を行い、取り組みの見直しや軌道修正を行っています。

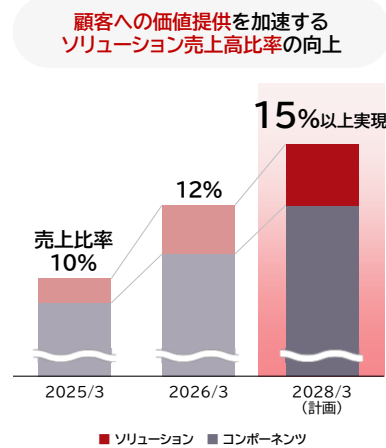
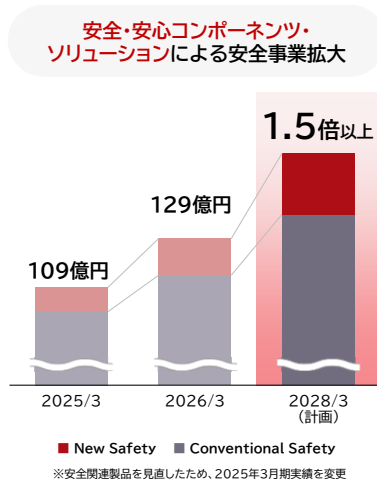
四半期に1度はFace to Faceの会議を本社で実施し、中長期戦略の進捗度合いの確認や、特定の戦略テーマに関するディスカッションを行っています。

この取り組みにより、年度計画や中期経営計画を着実に推進することができています。

事業戦略:KPI



- 「HMI・安全・安心」を軸に、顧客の潜在ニーズに応える製品・サービスを展開し、事業成長を実現



GOCの元、事業戦略を推進しており、安全事業の拡大、ソリューション売上の向上というKPIを設定しています。

HMI・安全・安心という、IDECが強みを持つ事業を軸に、顧客の潜在ニーズに応える製品やサービスを展開することで、事業成長を加速していきます。

安全事業とソリューション売上高比率については、概ね計画線での進捗状況となっています。

事業

特長

地域

- ✓ HMI、安全・防爆、インダストリアルコンポーネンツ、オートメーション&ソリューションという4つの事業軸で、グローバルにビジネス展開

- ✓ 日本での売上高が最も高く、アジア・パシフィック、米州、EMEAが続く
- ✓ グローバルでの売上拡大を積極的に推進

- **HMI-X [Transformation]** というコンセプトのもと、人と機械が共存する環境で生まれる課題を解決し、お客さまの現場をより安全に、より効率的に変えていく製品・ソリューションを展開
- 主力事業であるHMIは、**現地ニーズにマッチした製品を、スピーディーに提供できる体制を構築**
- 安全事業の強化に向けて、**グローバルでの拡販**を推進し、安全性と生産性の両立を目指す「**協調安全**」ニーズを満たす**ラインアップを拡充**

HMI-X [Transformation]



先ほどご説明したKPIを達成するための事業戦略のキーとなるのが、2つのBusiness Unitです。

IDEC Business Unitは、HMIや安全・防爆事業を始め、4つの事業軸でグローバルに事業を展開しており、販売する業界も多岐にわたります。

日本での売上高が最も高く、アジア・パシフィック、米州、EMEAと続きます。

事業戦略としては、HMI-Xのコンセプトのもと、人と機械が共存する環境で生まれる課題を解決し、お客様の現場をより安全に、より効率的に変えていく製品やソリューションを展開しています。

グローバルでの売上を更に拡大していくため、主力事業であるHMI事業では、現地ニーズにマッチした製品を、よりスピーディーに提供できる地産地消の体制を構築しています。

もう一つの強みである安全事業の強化に向けては、グローバルで

の拡販を推進し、安全性と生産性の両立を目指す、協調安全のニーズを満たすラインアップ拡充を図っています。



✓ HMI事業の領域で、コンポーネンツ、ジョイスティック、パネルソリューションという3つの製品群を、さまざまな特殊車両向けに展開

✓ 欧州での売上高比率が最も高く、次いで米州
 ✓ アジア・パシフィックでの売上拡大も推進中

- **マテリアルハンドリング、建設機械、防衛関連**が重点市場
- 付加価値の高いソリューション志向の高まりを背景に、各種産業の**特殊車両向け**に製品展開を拡大
- **安全・サイバーセキュリティ**に対する、高い要求に対応する製品の開発
- 主力の欧州・米国の強化を図りつつ、成長余地の大きいアジアでの拡大推進



APEM Business Unitは、HMI事業の領域で、コンポーネンツ、ジョイスティック、パネルソリューションという3つの製品群を展開しています。

これらの製品を、マテリアルハンドリングや建設機械、防衛関連などの、さまざまな業界の特殊車両で採用いただいています。

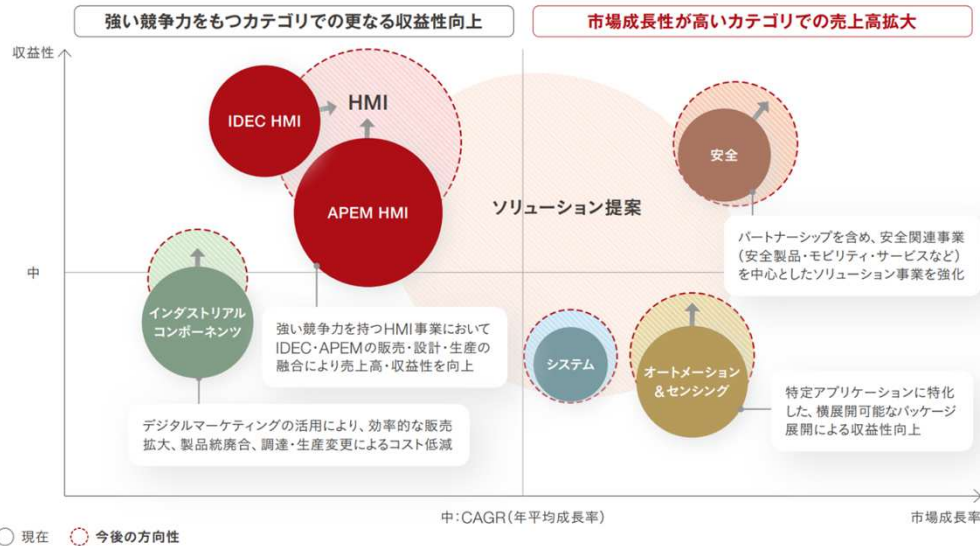
欧州での売上高比率が最も高く、その次が米州となります。

今後、安全やサイバーセキュリティに対する高い要求に対する製品の開発を推進し、主力地域での売上強化を図りつつ、日本やアジア・パシフィックなど成長余地の大きい地域での拡大も推進しています。

事業戦略：事業のポートフォリオ



- 強い事業の収益性拡大と、市場成長の高いカテゴリでのソリューションを強化



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 29

こちらが事業ポートフォリオですが、IDECが強みを持ち、収益性の高いHMI、そして安全関連事業を強化することで、売上高の拡大と収益性の強化を実現していきます。

- 市場規模が大きく収益性の高い米州を中心に、海外での売上を更に拡大
- 地産地消をグローバルで推進し、顧客ニーズにマッチした製品・ソリューションを、スピーディーに開発・販売

日本	米州	EMEA
<ul style="list-style-type: none"> ● 自動化、ロボティクス、安全ニーズに応える、モビリティソリューション、協調安全アプリケーションなどの、更なる強化 ● インサイドセールス・テクニカルセールス強化による、販売効率の向上 ● 販売代理店と連携した、販売の精度や顧客サービスの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● IDEC・APEMの統合、新本社稼働による、シナジー、事業拡大の加速 ● 自動化、ロボティクス、安全ニーズ需要の拡大を踏まえた、製品、ソリューションの拡大 ● グローバルでの注力業界に加え、オイル&ガスなど、米州で強い特定業界向けの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● マテリアルハンドリング、建設機械、防衛関連向け特殊車両の更なる強化 ● モビリティソリューションの展開加速 ● ロボティクス需要を踏まえたアプローチ強化 ● APEM顧客に対する、安全機器などIDECブランド製品の拡販
中華圏	アジア・パシフィック	
<ul style="list-style-type: none"> ● 拡大する安全需要に応える、多様な安全ソリューションの展開 ● 現地でのマーケティング、R&D、生産強化による、「China for China」のイニシアティブ推進と、現地ニーズに対応した製品開発の強化 ● 現地メーカーとのパートナーシップ構築による成長加速 	<ul style="list-style-type: none"> ● インド市場向けの、HMI、安全機器、モビリティソリューションなどの販売拡大 ● 現地でパートナーシップ構築し、主要製品の組み立ての現地化による、成長加速 ● エンジニアリングおよびソフトウェアサポートセンターのインドでの設立 	

続いて、地域戦略についてご説明します。

市場規模が大きく、収益性も高い米州での事業拡大を推進するため、米国拠点の統合や再編を行っており、今後グローバルでの売上を更に拡大していきます。

地産地消を実現する体制整備をグローバルで推進することで、現地の顧客ニーズにマッチした製品やソリューションを、スピーディーに開発、販売できるようにしていきます。

また、世界的に自動化やロボティクス、安全に関するニーズが拡大しているため、IDECの強みである安全・安心を実現できる、さまざまな製品やソリューションの展開を加速していきます。

注力業界と傾向



- 半導体関連やAGV・AMRはグローバルで高い成長を見込んでおり、工作機械やロボット業界も、引き続き一定程度の成長を見込む

—:横ばい ○:拡大

		2027年3月期の見通し (2026年3月期比)	日本	米国	欧州	中国	APAC
工作機械		・ 欧州を除き、各地域で引き続き一定程度の成長が見込まれています。	○	○	—	○	○
半導体		・ 中国、日本を中心にグローバルで力強い成長が見込まれていることから、半導体製造装置も大きな成長を見込んでいます。	○	○	—	○	
ロボット		・ 米国や中国を中心に、グローバルで一定程度の成長が見込まれています。	—	○	—	○	
自動車		・ 成長は限定的となる見込みです。	—	—	—	—	—
特殊車両		・ 防衛関連は成長を見込む一方、建設機械、マテハン向け装置などは、横ばいか微増程度の状況が続く見込みです。	—	—	—	○	
AGV・AMR		・ 引き続き、グローバルで力強い成長が続く見込みです。	○	○	○	○	

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 31

我々が製品やソリューションを展開する、注力業界はご覧の通りです。

2027年3月期は、特に半導体関連とAGV・AMR業界で高い成長を見込んでおり、工作機械やロボット業界も引き続き一定程度の成長を見込んでいます。

また、今後成長が期待できる新しい市場、業界などにも積極的に展開していきます。

ソリューション事例(1)



- 多様な顧客ニーズ、社会課題の解決に貢献するIDECのソリューション

部材搬送工程の作業負荷低減

- 既存の台車に取り付けることで簡単に電動アシスト化できる、アシストホイールドライブ(AWD)を使ったソリューション
- 省コスト・省工数で、作業者の負荷を大幅に軽減し、ウェルビーイング向上にも貢献。また、手元のスイッチ操作で減速・停止できるため、安全性も確保



搬送工程自動化のための開発コスト・工数の低減

- セーフティホイールドライブ(SWD)を搭載し、IDECの各種HMI、安全関連機器などがソフトウェアによってパッケージ化された、AGV・AMR用開発キット「SWD Build KIT」を提供し、搬送工程を自動化をサポート
- お客様のアプリケーションに合わせて柔軟なカスタマイズが可能、開発コスト・工数を大幅に削減



駐車場の安全性と利便性の向上

- 機械式駐車場で、人が装置内に留まっていることに気付かず、装置を稼働させることで生じる重大な事故を防止するため、さまざまな製品を組み込んだソリューションを提供
- 操作ミスや確認不足による閉じ込め事故や、挟まれたり落下してしまう事故を未然に防止



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 32

さまざまな顧客ニーズにお応えするソリューションを展開していますが、その一部をご紹介します。

近年、搬送工程の自動化、省力化ニーズが高まっていることから、アシストホイールドライブやセーフティホイールドライブを活用したソリューション事例が、国内外で増えています。

また、駐車場での事故を防止し、安全性と利便性向上を実現する事例では、アルプスアルパイン社との合弁会社で開発したセンサと、IDECの安全製品を活用いただいています。

ソリューション事例(2)



- 多様な顧客ニーズ、社会課題の解決に貢献するIDECのソリューション

特殊車両のニーズに合わせた パネルソリューション

- 建設機械、マテリアルハンドリングの車両など、統合型のプラグ&プレイHMIソリューションへのニーズを有するさまざまな産業に対応
- APEMのパネルソリューションは、高品質なコンポーネントとパネル技術、さまざまな環境でのアプリケーションを組み合わせることで、顧客の技術要件や予算合った操作パネルやリモートコントロールを提供



海外向け制御盤の 設計・製作・コンサルティングサービス

- 米国のUL508A認証メーカーとして登録する、グループ会社のIDECファクトリーソリューションズで、北米市場参入の最大の障壁となる、制御盤の規格適合をサポート
- システムインテグレータとして、設計前のリスクアセスメントから、設計、製作、出荷まで一貫した体制を整備



工場や物流拠点の自動化をサポートする 安全対策

- 工場内や物流拠点で活用が広がる、AGF(無人搬送フォークリフト)の安全対策として、IDEC ALPS Technologiesのミリ波レーダセンサと、IDECの非常停止アシストシステムなどを組み合わせたソリューションを提供
- 人や障害物を安定的に検知し、不測の事態が発生した場合でも遠隔操作できるため、生産性・効率性と安全性を両立



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 33

その他にも、業界によって異なる特殊車両向けニーズに対応するAPEMのパネルソリューションや、IDECファクトリーソリューションズの制御盤ビジネス、工場などの自動化をサポートする安全対策など、さまざまな社会課題解決に貢献するソリューション事例があります。

顧客中心のビジネス構造

+

One IDECの実現

主な構造改革
プロジェクト

- 営業改革
- R&D体制・プロセスの改革
- SCM・生産のグローバル最適化

最後に、前期から今期にかけて推進している、主な構造改革プロジェクトについてご紹介します。

● 営業改革: 各拠点で異なる営業プロセスをグローバルで標準化

- 顧客ニーズを深く捉えた上で価値を提供する、**先回り型のターゲット営業アプローチを確立**
- 社内知識やノウハウを体系化し、ナレッジを標準化することで、**全体の提案レベルを更に引き上げる**
- 顧客ニーズを開発にフィードバックし、**ニーズに基づく製品開発ロードマップを立案**

● R&D改革: **顧客中心のビジネス構造の構築**に向けて、グローバルR&D体制・プロセスを刷新

- 開発前工程から関係部門が情報を共有し、**日本・米国・欧州の3拠点による、コンカレント開発**へと転換
- **顧客のために解決すべき技術課題・ソリューションを顧客志向で検討**し、優れたテーマをイノベーションテーマとして選定
- 顧客ニーズを踏まえた計画づくりを進めることで、後工程の手戻りを抑え、**開発スピードと品質向上**を推進

営業改革は、複数あるプロジェクトの中でも特に重視している取り組みです。

顧客中心のビジネス構造を構築するため、今まで各拠点で異なっていた営業プロセスをグローバルで標準化します。

顧客ニーズを深くとらえた上で価値を提供する、先回り型のターゲット営業アプローチを確立し、ナレッジを標準化することで、全体の提案レベルをさらに引き上げていきます。

また、営業がヒアリングした顧客ニーズを開発にフィードバックすることで、ニーズに基づく製品開発のロードマップを立案します。

同時に、グローバルR&D体制とプロセスの刷新も行いました。

日本、米国、欧州の3拠点によるコンカレント開発へと転換するとともに、顧客のために解決すべき技術課題やソリューションを、顧客志向で検討し、その中から優れたテーマをイノベーションテーマとして選定、開発していきます。

これらの取り組みにより、開発スピードと品質の向上を図っていき

ます。

SCM・生産のグローバル最適化



● 地産地消をベースに、効率的なサプライチェーンマネジメント・拠点再編を推進

- リードタイム短縮、納期遵守率向上に向けた、サプライチェーンの見直しや生産拠点の再編を推進
- 複数ある生産拠点の再編を今後順次推進予定
- SCP (Supply Chain Planning)システムのグローバル導入による、需給情報の収集・一元管理、需給計画の向上

米州

- ・ 米国新本社での生産・組み立て
- ・ メキシコ新拠点設立
- ・ 他拠点からの生産移管

欧州

- ・ 拠点の集約
- ・ 欧州内外への生産移管

日本+アジア・パシフィック

日本

- ・ 拠点の集約・新設
- ・ ノンコア工程の外注化
- ・ 国外への生産移管
- ・ 戦略的な生産パートナー拡大

アジア・パシフィック

- ・ 生産移管、拠点の統合・集約
- ・ インドでの現地調達・生産開始



SCM・生産のグローバル最適化に向けては、地産地消をベースに、効率的なサプライチェーンマネジメント、拠点の再編を推進していきます。

米国では新本社を設立して、生産と組み立てをスタートするとともに、メキシコの新拠点を今年度から稼働することで、成長市場である米州の強化を図っています。

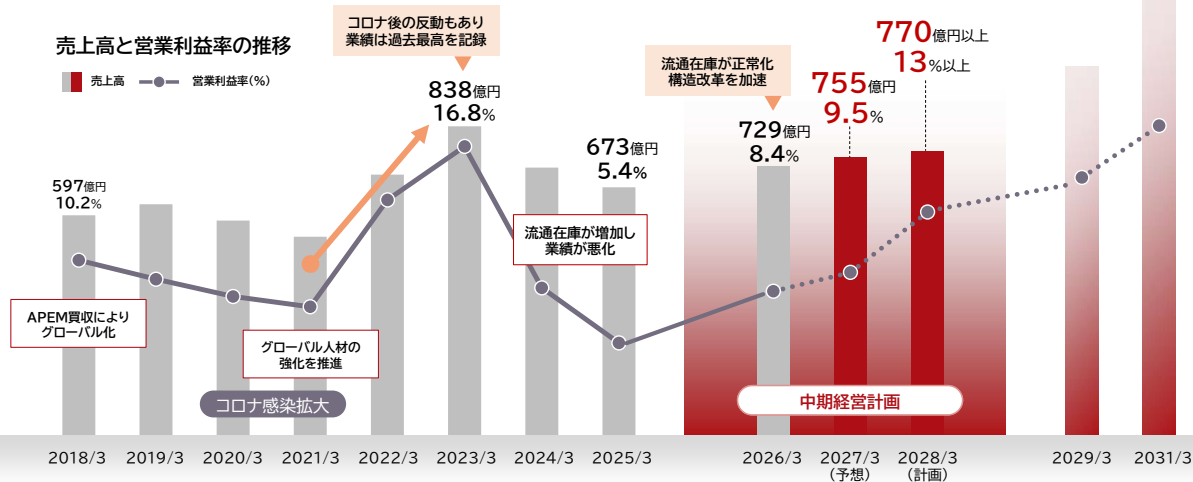
今後、欧州、日本、アジア・パシフィックでの取り組みも順次進めていきます。

中期経営計画



売上高と営業利益率の推移

■ 売上高 ● 営業利益率(%)



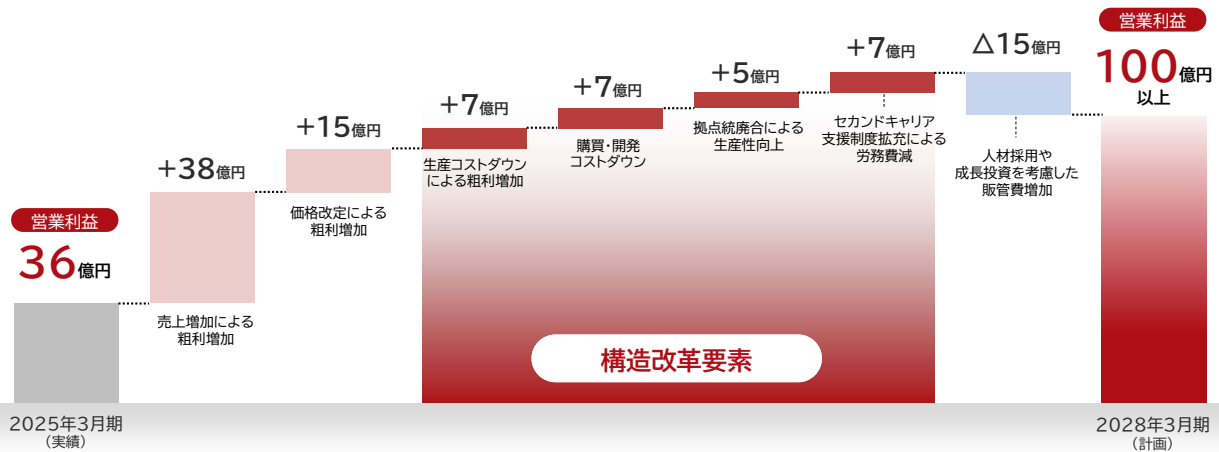
Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 37

引き続き、3年目の計画である売上高770億円、営業利益率13%以上という目標に向けて、さまざまな構造改革を推進しておりますので、今期からその取り組みをさらに加速していきます。

2025年3月期と2028年3月期の利益変動想定



- 構造改革要素は、コストダウンはほぼ想定通りだが、外部環境の影響でコストアップ要素が想定を上回る状況
- グローバル人材への投資、人件費などが想定より増加傾向
- 高収益事業の拡大やPLMの見直しなどを今後推進することで、コストダウンを加速



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 38

中期経営計画3年目の利益率13%、100億円に向けた利益変動想定はご覧の通りです。

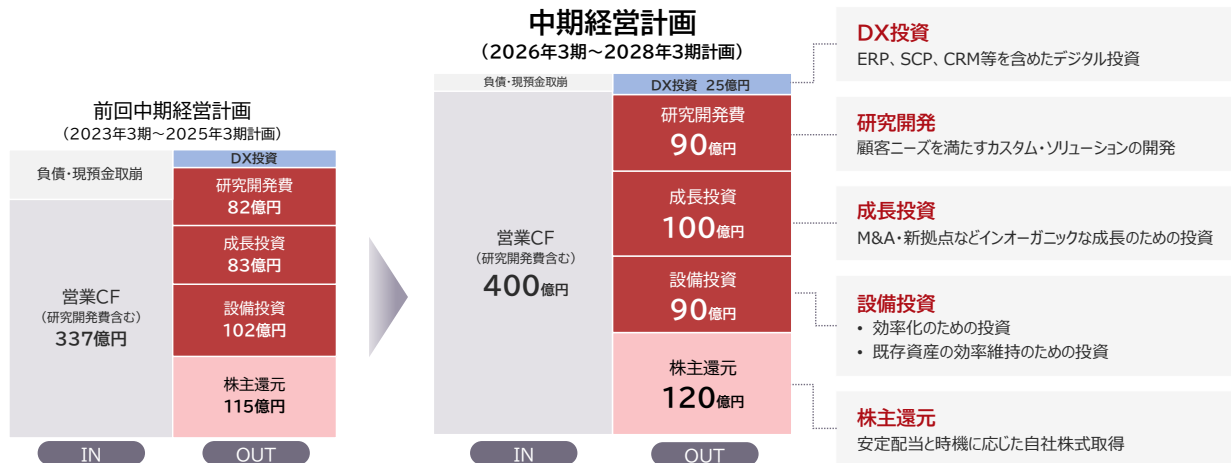
期初想定通り、構造改革要素については、コストダウンはほぼ想定通りに進んでいる一方、外部環境の影響により、コストアップ要素が想定を上回っており、DX投資や、グローバル人材への投資、人件費なども増加傾向となっています。

今後、高収益事業の更なる拡大や、PLM(Product Lifecycle Management)の見直しなどを推進することで、コストダウンを加速し、利益を確保していきます。

キャッシュアロケーション



- 2026年3月期は、ERPをはじめとするDX投資、米国の新本社設立などの成長投資、その他設備投資で約60億円



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved. | 39

こちらは、中期経営計画におけるキャッシュアロケーションですが、2026年3月期はDX投資や、米国新本社の設立などの成長投資、その他設備投資で約60億円の実績となっており、1年目としてはほぼ計画通りの進捗状況となっています。

今後も従来通り安定的な配当などの株主還元は維持しつつ、顧客ニーズを満たすためのカスタム・ソリューションや新製品の開発投資、M&Aなどの検討、拠点再編などのための投資を行うことで、資本効率を向上させつつ、成長を加速していきます。

目標達成に向けて、グループ全体がOne IDECで各種取り組みを推進し、新生IDECへと生まれ変わっていくことで持続的な成長を目指していきますので、よろしくお願いいたします。

以上で、私からの説明は終わらせていただきます。

参考資料

グローバルネットワーク

(2026年3月末時点)



海外売上高比率

66%

事業を展開している国・地域

16

● 販売 ■ 開発 ▲ 生産

米州

● ■ ▲ IDEC CORPORATION (米国)

EMEA

- ■ ▲ APEM SAS (フランス)
- ■ ▲ APEM Components Ltd (英国)
- ■ ▲ APEM Italia Srl(イタリア)
- ■ ▲ APEM GmbH (ドイツ)
- ■ ▲ APEM AB(スウェーデン)
- ■ ▲ APEM Benelux (ベルギー)
- ■ ▲ MEC Aps (デンマーク)
- ■ ▲ SACEMA (チュニジア)
- ■ ▲ SAMELEC (チュニジア)

日本

- ■ ▲ IDEC株式会社
- ■ ▲ IDECファクトリーソリューションズ株式会社
- ■ ▲ IDEC ALPS Technologies株式会社
- ■ ▲ IDEC AUTO-ID SOLUTIONS株式会社
- ■ ▲ IDECセールスサポート株式会社
- ■ ▲ IDECロジスティクスサービス株式会社

中華圏

- ■ ▲ 愛徳克電気貿易(上海)有限公司
- ■ ▲ 台湾和泉電気股份有限公司
- ■ ▲ IDEC IZUMI(H.K.) CO., LTD.
- ■ ▲ 愛徳克電子科技(上海)有限公司
- ■ ▲ 蘇州和泉電気有限公司
- ■ ▲ 台湾愛徳克股份有限公司

APAC

- ■ ▲ IDEC IZUMI ASIA PTE LTD. (シンガポール)
- ■ ▲ IDEC CONTROLS INDIA PRIVATE LIMITED (インド)
- ■ ▲ IDEC ASIA(THAILAND) CO., LTD.(タイ)



製品別売上区分



HMI

- 制御用操作スイッチ
- ジョイスティック
- 表示灯
- プログラマブル表示器
- セーフティコマンド

IDEC



APEM



インダストリアル コンポーネンツ

- 端子台
- 制御用リレー/ソケット
- スイッチング電源
- サーキットプロテクタ
- 産業用LED照明



オートメーション& センシング

- プログラマブルコントローラ
- センサ
- アシストホイールドライブ (AWD)
- セーフティホイールドライブ (SWD)
- 自動認識機器



安全・防爆

- 安全関連機器
 - 非常停止用ボタンスイッチ
 - イネーブルスイッチ
 - 安全スイッチ
 - セーフティレーザスキャナ など



- 防爆関連機器



システム

- 制御盤
- 協働ロボットシステム
- セキュリティシステム
- その他各種システム



この資料には一部当社の計画や業績予想が含まれていますが、それらの計画や予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が計画、予想したものです。

従って、実際の業績などは、今後さまざまな要因によって計画、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

IDEC株式会社
経営戦略企画本部
TEL : 06-6398-2505
FAX : 06-6398-2587

